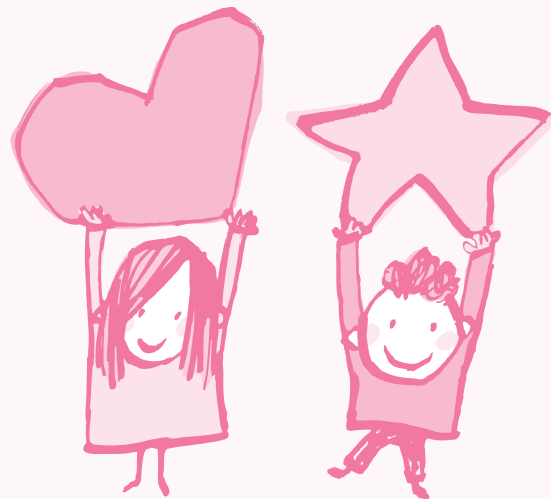


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2019年度事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2019～ Mar.31,2020



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検 索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2019年度収支報告	6
 2019年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③治療研究事業	15
④総合支援施設運営事業	17
⑤小児がん・難病対策	18
⑥支部活動	19
⑦広報・啓発・募金活動 等	21
⑧国際活動	25
⑨奨学金事業	25
⑩ボランティアコーディネート・研修会	26
⑪調査研究協力	26
⑫2019年度年次大会開催	27
⑬企業・団体からのご協力	28
 寄付・募金者一覧	29

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2019年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

残念ながら、事業報告書の発行に向けこの一文を書いている現在、日本は新型コロナウィルス感染拡大による緊急事態宣言の発令とその更なる延長という厳しい状況下にあります。がんの子どもを守る会も1968年の設立以来の未曾有の事態に直面し、会のミッションを常に念頭に患児・家族の為にこの事態の下でできることは何か、或いはしてはいけないことは何かを真剣に考えながら職員・理事一同日々を過ごしております。

そのような環境下にもかかわらず、職員の努力によりこの2019年度事業報告書を予定通り発行することが出来ました事を嬉しく思っております。しかし、今回の緊急時対応の一環で6月の年次大会が招待講演のみをWEBで配信するという形に変更せざるを得なくなったため、これまでのように年次大会の場で事業報告書を配布し参加者に手に取って見て頂くことが叶わず、機関誌「のぞみ」に同封しての郵送配布のみとなり、お手元に届くまで少し時間がかかったかと思えます。

このような状況ではありますが、ここでご報告する2019年度の事業は、新型コロナウィルス禍が拡大した最後の2カ月程の業務に多少の影響が出はしましたが、概ね当初の計画から大きく外れる事無く事業を推進し成果をあげることが出来ました。当会の活動に変わらぬご支援を頂いている皆さま及び事業活動を担う事務局職員の皆さんに心から感謝いたしております。

皆さまご承知の通り、当会は設立50年の記念の年であった2018年を中心に2017年及び2019年を50年記念の3カ年として、幾つかの新しい取り組みを進めて参りましたが2019年度はその締め括りの年度でありました。その事業活動の詳細は本報告書をお読みいただきたいと思います、ここでは総括的に一点述べさせていただきます。

当会の事業の大きな柱の一つは総合支援施設と

してのペアレンツハウス運営と、それをベースとした相談事業を含む患児・家族の支援であります。この3年の間に東京のペアレンツハウス運営を外注から直営に切り替えたうえで施設の改修を行い、ソーシャルワーカーを中心に職員全員が一丸となってこれまで以上に患児・家族の皆様に寄り添った事業を実践していくという事を大きな目標の一つとして参りました。人的資源の不足等、今後の課題は少なからず残されてはおりますが、この目標実現のためのレールはこの3年間で概ね整ったと考えております。

残された課題の解決を図るだけでなく新しい事業の準備もスタートする予定であった2020年度が、新型コロナウィルス感染の蔓延という予想もしていなかった苦境の中で始まることとなってしまったのは大変残念ではございます。しかしこの苦境は当会や小児がん患児・家族だけが味わっているものでなく、当会を支えていただいているご支援者の方々全てに共通する事態であり、共に戦っていかなければならないものと覚悟しております。更にこの厳しい状況は、日本だけのものではなく、世界中が新型コロナウィルスによるパンデミック状態のただなかにあり、世界各国の親の会も小児がん患児・家族への支援を続けることに奮闘しております。

小児がん親の会の国際組織CCIは、小児がん患児・家族に対して“You are not alone”（あなた方は一人ぼっちではない）と呼びかけ、世界の各地で患児・家族が“We are not alone”（私たちは一人ぼっちではない）と応えています。この声が今ほど身近に感じられる時はありません。我々だけでなく世界中が今しばらく厳しい環境下に置かれることは必至です。私たちはどんな環境下でも使命である小児がん患児・家族の支援を続けて参ります。“You are not alone”/“We are not alone”の声の輪の中には、患児・家族だけでなく私たちの活動をご理解いただきご支援を頂いている皆様も含まれます。この輪の中におられる皆様におかれましてはくれぐれもご自愛いただき、共にこの厳しい事態を乗り越えられることを衷心からお祈り致しております。

2020年5月15日



組織概要

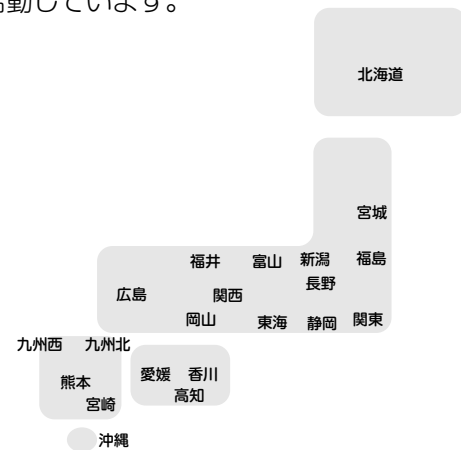
※ 2020 年 3 月 31 日現在

名 称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設 立	1968年10月31日
設 立 趣 旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主 務 官 庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀 戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大 阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組 織	理 事 11名（理事長1名、副理事長3名） 監 事 2名 評 議 員 12名 職 員 27名 普通会员 1920名 賛助会員 265名（法人246社、個人19名）

支 部	当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。
-----	---

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、
富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、
広島、香川、愛媛、高知、九州北、
九州西、熊本、宮崎、沖縄



役 員 名 簿

理 事 長	
山下 公輔	親／元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー
副理事長	
細谷 亮太	当会嘱託医／聖路加国際病院 顧問
近藤 博子	親／元 当会ソーシャルワーカー
増子 孝徳	親／弁護士
理 事	
橋都 浩平	株式会社メディカルノート 社外取締役／ 株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役／ 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授 認定NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長／ 元 アフラック生命保険株式会社 会長
松井 秀文	親／当会九州北支部 幹事
張 光陽	親／当会福井支部 代表幹事
坪田 起久恵	親／当会関西支部 代表幹事／NPO 法人日本クリニクラウン協会 理事
森下 さふみ	親／当会会員
田中 徹	常務理事／当会事務局長
石川 幹雄	
監 事	
高橋 和子	親／当会九州北支部 幹事
三川 勝夫	親／三川会計事務所 代表
評 議 員	
河 敬世	大阪母子医療センター 顧問
深澤 重幸	親／コトブキシーティング株式会社 代表取締役会長
西田 知佳子	NPO 環の会 理事／元 聖路加国際病院 医療社会事業科 ソーシャルワーカー
平野 朋美	社会福祉法人桜楓会 医療型障害児入所施設カリヨンの杜連携室 ソーシャルワーカー
平澤 一郎	小児がん経験者／長岡こども・医療・介護専門学校 教務主任
幸島 静枝	親／当会会員
稲田 浩子	社会福祉法人ゆうかり学園医療療育センター小児科医
中村 美智子	小児がん経験者
鈴木 中人	親／当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏	北里大学医学部 脳神経外科 主任教授
本橋 由紀	株式会社毎日新聞社 編集編成局 編集委員
三好 完治	親／当会会員
療養援助委員会	
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
柳澤 隆昭	東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター長
川井 章	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長／ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長
康 勝好	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 部長兼科長

調査研究委員会

橋都 浩平	当会理事
細谷 亮太	当会副理事長／当会嘱託医
星 順隆	元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
上別府 圭子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 家族看護学分野 教授
岩田 敬治	当会最高相談役
増子 孝徳	当会副理事長
山下 公輔	当会理事長

治療研究委員会

山下 公輔	当会理事長
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明	東邦大学医学部 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
陳 基明	日本大学医学部附属板橋病院 小児科 科長
菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授
丸 光恵	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授
〈専門委員〉	
野崎 美和子	獨協医科大学 埼玉医療センター 放射線科 教授
逸見 仁道	東邦大学 医学部 医学教育センター 客員講師
中澤 温子	埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

鎌田 薫	早稲田大学前総長
関谷 亜矢子	元 日本テレビアナウンサー／ 厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」委員
細井 創	日本小児血液・がん学会 理事長
藤原 房子	元 日本経済新聞社 編集委員
松井 秀文	当会理事
増子 孝徳	当会副理事長
小川 明	共同通信 客員論説委員
吉田 晋	日本私立中学高等学校連合会 会長

SMS キャンプ委員会

稲田 浩子	当会評議員
高木 正稔	東京医科歯科大学 発生発達病態学分野・小児科 准教授
飯田 宏美	さいわいこどもクリニック 在宅診療部
渡邊 輝子	済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀	当会評議員

富士山キャンプ委員会

別所 文雄	日本医療科学大学 保健医療学部 医療基礎教育科／ 杏林大学医学部付属病院 小児科
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 医長
安野 啓一郎	長崎県立こども医療福祉センター

名誉顧問

柳田 邦男	作家
-------	----



会の歴史

(年度)	
1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章

(年度)	
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成／大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の 連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）／第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出



2019年度収支報告

(2019年4月1日～
2020年3月31日)

2019年度収支報告



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
財産運用益	5,399,058			5,399,058
普通預金利息	3,702			3,702
定期預金利息	35,905			35,905
投資有価証券利息	5,359,451			5,359,451
受取寄付金	256,533,036		46,698,173	303,231,209
特定寄付金	6,045,990			6,045,990
一般寄付金	46,698,174		46,698,173	93,396,347
受取寄付金振替額	203,788,872			203,788,872
受取協賛金	1,500,000			1,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000			1,500,000
受取補助金等	1,407,669			1,407,669
受取補助金等振替額	1,407,669			1,407,669
受託料	2,683,220			2,683,220
学会業務受託料	1,000,000			1,000,000
調査研究受託料	915,000			915,000
相談支援受託料	768,220			768,220
受取利用料	6,021,250			6,021,250
施設利用料	5,290,600			5,290,600
リネン利用料	730,650			730,650
雑収益	2,243,030	1,800,000		4,043,030
雑収益	2,243,030	1,800,000		4,043,030
経常収益計	275,787,263	1,800,000	46,698,173	324,285,436
(2)経常費用				
事業費	318,646,159	404,701		319,050,860
人件費	87,375,747			87,375,747
法定福利費	10,267,312			10,267,312
給与	73,919,066			73,919,066
福利厚生費	54,369			54,369
退職給付費用	3,135,000			3,135,000
助成費	25,342,283			25,342,283
療養助成費	15,742,283			15,742,283
治療研究助成費	7,600,000			7,600,000
調査研究助成費	2,000,000			2,000,000
活動費	82,673,068	404,701		83,077,769
会議費	597,937			597,937
旅費交通費	9,609,955			9,609,955
通信運搬費	6,409,581			6,409,581
消耗品費	2,317,754			2,317,754
修繕費	2,142,994			2,142,994
印刷製本費	1,872,612			1,872,612
光熱水料費	11,142,940			11,142,940
保険料	967,402	16,250		983,652
諸謝金	859,383			859,383
業務委託費	680,028			680,028
広報費	4,376,066			4,376,066
支援費	1,103,000			1,103,000
図書資料費	178,184			178,184
保健衛生費	806,982			806,982
ゴールドリボン制作費	1,650,161			1,650,161
宿泊施設運営費	582,754			582,754
租税公課	9,273,800	70,700		9,344,500
リネン賃借料	411,022			411,022
事業協力費	1,920,968			1,920,968
会場費	2,193,858			2,193,858
雑費	2,290,163	544		2,290,707
保守料	13,028,337	216,960		13,245,297
リース料	2,034,300			2,034,300
植栽管理費	263,027			263,027
借地料	845,886			845,886
衛生管理費	3,460,413			3,460,413
消耗什器備品費	1,753,808			1,753,808
減価償却費	30,080,061			30,080,061
建物減価償却額	26,891,643	100,247		26,991,890
建物附属設備減価償却額	2,880,924			2,880,924

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
ソフトウェア減価償却額	111,600			111,600
什器備品減価償却額	95,647			95,647
奨学金給付費	93,175,000			93,175,000
奨学金給付費	93,175,000			93,175,000
管理費			29,637,499	29,637,499
人件費			19,560,989	19,560,989
給与			14,756,076	14,756,076
法定福利費			2,694,659	2,694,659
福利厚生費			20,254	20,254
退職給付費用			2,090,000	2,090,000
活動費			9,396,930	9,396,930
会議費			35,690	35,690
旅費交通費			1,073,943	1,073,943
通信運搬費			752,043	752,043
消耗品費			44,455	44,455
修繕費			17,280	17,280
印刷製本費			877,503	877,503
図書資料費			48,444	48,444
保守料			364,716	364,716
リース料			2,184,430	2,184,430
支払報酬			1,830,200	1,830,200
租税公課			3,000	3,000
消耗什器備品費			1,292,280	1,292,280
雑費			872,946	872,946
減価償却費			679,580	679,580
ソフトウェア減価償却額			243,216	243,216
什器備品減価償却額			436,364	436,364
経常費用計	318,646,159	404,701	29,637,499	348,688,359
評価損益等調整前当期経常増減額	△42,858,896	1,395,299	17,060,674	△24,402,923
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△42,858,896	1,395,299	17,060,674	△24,402,923
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2)経常外費用				
固定資産除却損	3	0	0	3
経常外費用計	3	0	0	3
当期経常外増減額	△3	0	0	△3
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△42,858,899	1,395,299	17,060,674	△24,402,926
他会計振替額	678,000	△678,000		0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△350,100		△350,100
当期一般正味財産増減額	△42,180,899	367,199	17,060,674	△24,753,026
一般正味財産期首残高	513,926,941		122,287,872	636,214,813
一般正味財産期末残高	471,746,042	367,199	139,348,546	611,461,787
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	1,407,669			1,407,669
受取助成金	1,407,669			1,407,669
助成金	1,407,669			1,407,669
受取寄付金	190,221,117			190,221,117
指定寄付金	190,221,117			190,221,117
三重ファミリールーム指定寄付金	1,300,000			1,300,000
施設運営指定寄付金	113,211,738			113,211,738
奨学金指定寄付金	75,709,379			75,709,379
特定資産評価損益	3,425,624			3,425,624
一般正味財産への振替額	△205,196,541			△205,196,541
指定寄付金	△203,788,872			△203,788,872
受取助成金等	△1,407,669			△1,407,669
当期指定正味財産増減額	△16,993,379			△16,993,379
指定正味財産期首残高	2,065,590,412			2,065,590,412
指定正味財産期末残高	2,048,597,033			2,048,597,033
III 正味財産期末残高	2,520,343,075	367,199	139,348,546	2,660,058,820



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	一般会計	ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1)経常収益					
財産運用益	5,397,778	631	199	450	5,399,058
普通預金利息	2,422	631	199	450	3,702
定期預金利息	35,905	0	0	0	35,905
投資有価証券利息	5,359,451	0	0	0	5,359,451
受取寄付金	99,442,337	126,779,493	1,300,000	75,709,379	303,231,209
特定寄付金	6,045,990	0	0	0	6,045,990
一般寄付金	93,396,347	0	0	0	93,396,347
受取寄付金振替額	0	126,779,493	1,300,000	75,709,379	203,788,872
受取協賛金	1,500,000	0	0	0	1,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000	0	0	0	1,500,000
受取補助金等	1,407,669	0	0	0	1,407,669
受取補助金等振替額	1,407,669	0	0	0	1,407,669
受託料	2,683,220	0	0	0	2,683,220
学会業務受託料	1,000,000	0	0	0	1,000,000
調査研究受託料	915,000	0	0	0	915,000
相談支援受託料	768,220	0	0	0	768,220
受取利用料	228,000	5,612,650	180,600	0	6,021,250
施設利用料	228,000	4,882,000	180,600	0	5,290,600
リネン利用料	0	730,650	0	0	730,650
雑収益	3,761,930	281,100	0	0	4,043,030
雑収益	3,761,930	281,100	0	0	4,043,030
経常収益計	114,420,934	132,673,874	1,480,799	75,709,829	324,285,436
(2)経常費用					
事業費	83,143,899	132,673,874	3,731,721	99,501,366	319,050,860
人件費	29,490,746	53,885,001	0	4,000,000	87,375,747
法定福利費	3,678,418	6,088,894	0	500,000	10,267,312
給与	22,677,328	47,741,738	0	3,500,000	73,919,066
福利厚生費	0	54,369	0	0	54,369
退職給付費用	3,135,000	0	0	0	3,135,000
助成費	25,342,283	0	0	0	25,342,283
療養助成費	15,742,283	0	0	0	15,742,283
治療研究助成費	7,600,000	0	0	0	7,600,000
調査研究助成費	2,000,000	0	0	0	2,000,000
活動費	28,210,623	50,573,114	1,967,666	2,326,366	83,077,769
会議費	552,584	7,129	0	38,224	597,937
旅費交通費	8,589,085	882,076	68,000	70,794	9,609,955
通信運搬費	3,360,958	2,380,791	51,432	616,400	6,409,581
消耗品費	729,682	1,517,116	38,754	32,202	2,317,754
修繕費	0	2,142,994	0	0	2,142,994
印刷製本費	904,058	295,951	0	672,603	1,872,612
光熱水料費	0	10,764,673	378,267	0	11,142,940
保険料	47,062	925,970	10,620	0	983,652
諸謝金	859,383	0	0	0	859,383
業務委託費	0	555,900	124,128	0	680,028
広報費	4,376,066	0	0	0	4,376,066
支援費	1,053,000	0	50,000	0	1,103,000
図書資料費	33,040	139,644	0	5,500	178,184
保健衛生費	0	656,982	150,000	0	806,982
ゴールドリボン制作費	1,650,161	0	0	0	1,650,161
宿泊施設運営費	582,754	0	0	0	582,754
租税公課	75,900	9,268,600	0	0	9,344,500
リネン賃借料	0	411,022	0	0	411,022
事業協力費	1,920,968	0	0	0	1,920,968
会場費	2,193,858	0	0	0	2,193,858
雑費	1,065,104	310,052	24,908	890,643	2,290,707
保守料	216,960	12,967,301	61,036	0	13,245,297
リース料	0	2,034,300	0	0	2,034,300
植栽管理費	0	263,027	0	0	263,027
借地料	0	0	845,886	0	845,886
衛生管理費	0	3,353,493	106,920	0	3,460,413
消耗什器備品費	0	1,696,093	57,715	0	1,753,808
減価償却費	100,247	28,215,759	1,764,055	0	30,080,061

科 目	一般会計	ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
建物減価償却額	100,247	25,174,909	1,716,734	0	26,991,890
建物附属設備減価償却額	0	2,880,924	0	0	2,880,924
ソフトウェア減価償却額	0	111,600	0	0	111,600
什器備品減価償却額	0	48,326	47,321	0	95,647
奨学金給付費	0	0	0	93,175,000	93,175,000
奨学金給付費	0	0	0	93,175,000	93,175,000
管理費	29,637,499	0	0	0	29,637,499
人件費	19,560,989	0	0	0	19,560,989
給与	14,756,076	0	0	0	14,756,076
法定福利費	2,694,659	0	0	0	2,694,659
福利厚生費	20,254	0	0	0	20,254
退職給付費用	2,090,000	0	0	0	2,090,000
活動費	9,396,930	0	0	0	9,396,930
会議費	35,690	0	0	0	35,690
旅費交通費	1,073,943	0	0	0	1,073,943
通信運搬費	752,043	0	0	0	752,043
消耗品費	44,455	0	0	0	44,455
修繕費	17,280	0	0	0	17,280
印刷製本費	877,503	0	0	0	877,503
図書資料費	48,444	0	0	0	48,444
保守料	364,716	0	0	0	364,716
リース料	2,184,430	0	0	0	2,184,430
支払報酬	1,830,200	0	0	0	1,830,200
租税公課	3,000	0	0	0	3,000
消耗什器備品費	1,292,280	0	0	0	1,292,280
雑費	872,946	0	0	0	872,946
減価償却費	679,580	0	0	0	679,580
ソフトウェア減価償却額	243,216	0	0	0	243,216
什器備品減価償却額	436,364	0	0	0	436,364
経常費用計	112,781,398	132,673,874	3,731,721	99,501,366	348,688,359
評価損益等調整前当期経常増減額	1,639,536	0	△ 2,250,922	△ 23,791,537	△ 24,402,923
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	1,639,536	0	△ 2,250,922	△ 23,791,537	△ 24,402,923
2. 経常外増減の部					
(1)経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2)経常外費用					
固定資産除却損	0	3	0	0	3
経常外費用計	0	3	0	0	3
当期経常外増減額	0	△ 3	0	0	△ 3
他会計振替前当期一般正味財産増減額	1,639,536	△ 3	△ 2,250,922	△ 23,791,537	△ 24,402,926
税引前当期一般正味財産増減額	1,639,536	△ 3	△ 2,250,922	△ 23,791,537	△ 24,402,926
法人税・住民税及び事業税	△ 350,100	0	0	0	△ 350,100
当期一般正味財産増減額	1,289,436	△ 3	△ 2,250,922	△ 23,791,537	△ 24,753,026
一般正味財産期首残高	594,499,015	77,156,274	17,229,972	△ 52,670,448	636,214,813
一般正味財産期末残高	595,788,451	77,156,271	14,979,050	△ 76,461,985	611,461,787
II 指定正味財産増減の部					
受取補助金等	1,407,669	0	0	0	1,407,669
受取助成金	1,407,669	0	0	0	1,407,669
助成金	1,407,669	0	0	0	1,407,669
受取寄付金	0	113,211,738	1,300,000	75,709,379	190,221,117
指定寄付金	0	113,211,738	1,300,000	75,709,379	190,221,117
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	1,300,000	0	1,300,000
施設運営指定寄付金	0	113,211,738	0	0	113,211,738
奨学金指定寄付金	0	0	0	75,709,379	75,709,379
特定資産評価損益	3,425,624	0	0	0	3,425,624
一般正味財産への振替額	△ 1,407,669	△ 126,779,493	△ 1,300,000	△ 75,709,379	△ 205,196,541
指定寄付金	0	△ 126,779,493	△ 1,300,000	△ 75,709,379	△ 203,788,872
受取助成金等	△ 1,407,669	0	0	0	△ 1,407,669
当期指定正味財産増減額	△ 3,425,624	△ 13,567,755	0	0	△ 16,993,379
指定正味財産期首残高	109,682,964	1,725,269,351	18,548,842	212,089,255	2,065,590,412
指定正味財産期末残高	106,257,340	1,711,701,596	18,548,842	212,089,255	2,048,597,033
III 正味財産期末残高	702,045,791	1,788,857,867	33,527,892	135,627,270	2,660,058,820



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じていることに変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にスタートし、現在では、闘病中のご家族が病院のソーシャルワーカーやさまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。時代や療養環境の変化に対応するため、2016年度に改定を行い、従来「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類に分かれていたものを一つの「療養援助制度」に改めました。対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／難治性（転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない）のため治療を要する場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする 親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2019年度	
決定実績	174件
援助決定総額 (1件当たり平均)	15,742,283円 (90,473円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、NPO法人酒は未来を救う会、株式会社吉半、モルガン・スタンレーからのご寄付により運営させていただきました。

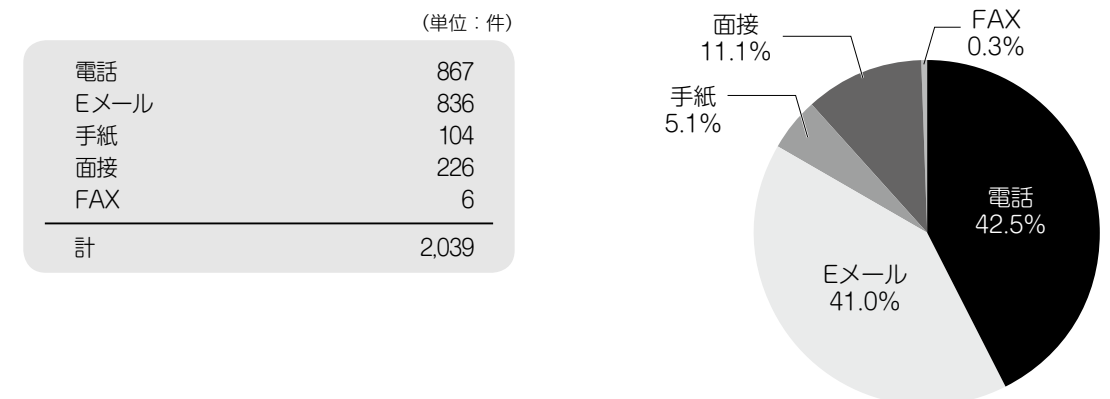
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

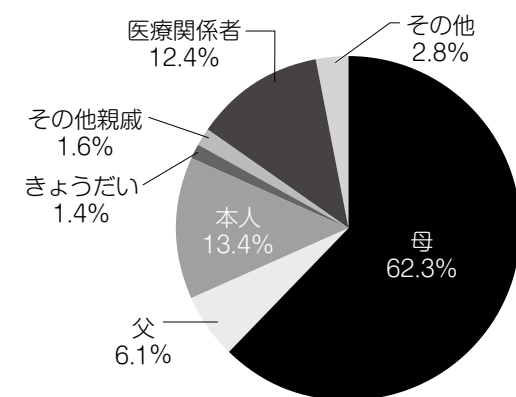
小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来45年以上に亘り継続して相談支援を行っています。2019年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。ご相談内容としては、亡くされたご家族の悲嘆などグリーフを含めた療養生活についてのご相談が多くみられました。また、治療中の経済的問題についてや、治療後の晩期合併症についてのご相談もかわらず多くありました。ペアレンツハウスを利用されている方からのご相談など、直接お顔を合わせる機会も多くありました。（詳細は下記をご参照ください）。

1. 相談方法

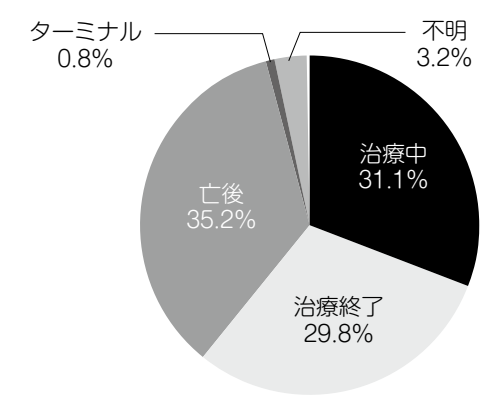


2. 相談者属性



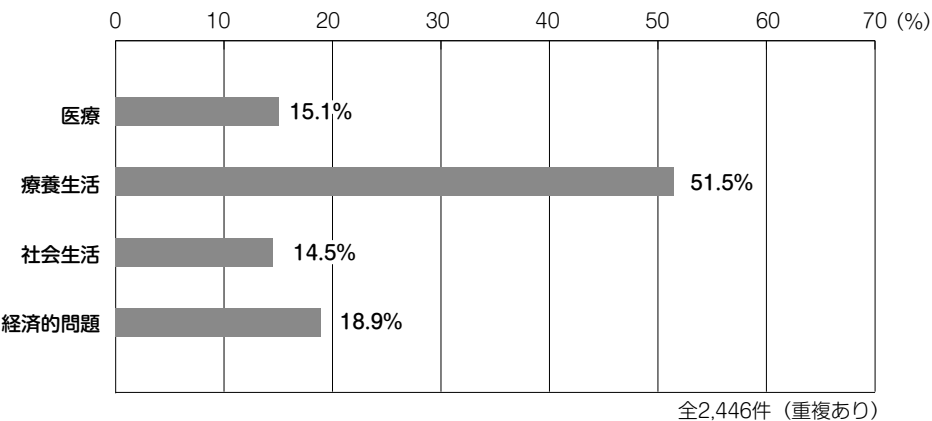
その他内訳：保健所等行政、知人、保育教育関連、他団体等

3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。
 医療：心理社会的、治療、晚期合併症、医療者との関係、セカンドオピニオン等
 療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等
 社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等
 経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年 12 回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かったご家族、15 歳～19 歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。また、2 月 29 日に開催を予定していた交流会は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策の一環として中止となりました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて 1 年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。
 2019 年度は、2019 年 5 月 15 日～6 月 19 日の期間に東京、亀戸事務所にて開催し、5 名が参加しました。グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、毎週 1 回、原則 90 分の集まりを計 6 回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。

〈サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び 1 年後の 2 回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。
 2018 年度春のグループの 1 年後の同窓会を 2019 年 9 月 27 日に 5 名の方の参加で、2019 年度春のグループの半年後の同窓会を 2019 年 12 月 11 日に 5 名の方の参加で、2017 年度春のグループの 2 年後の同窓会を希望により 2019 年 12 月 13 日に 3 名の参加で事務所にて開催されました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003 年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。
 2019 年度は 12 月 15 日に、がんの子どもを守る会大阪事務所にて開催し、全国から 7 団体 11 名が参加しました。今年も小児がん経験者の会のリーダーだけでなく、小児がん経験者で会のメンバーとして活動したい方、これから会を立ち上げたい方にもご参加いただき、ピアサポーター研修と経験者の会の広報方法や運営についてなど意見交換をおこない有意義な時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2019 年度は 6 団体に計 11 万 5 千円の活動費の支援を行いました。また、小児がん経験者による企画（プロジェクト）に対する助成金として、シェイクハンズ！「小児がん経験者の集い」と RB ピアサポートの会第 2 回 RB セミナー「網膜芽細胞腫患者の 2 次がん・長期フォローアップ」にそれぞれ 11 万 7 千 5 百円の支援を行いました。

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015 年 8 月より、「小児がん こどもでんわ相談室」（フリーダイヤル：0120 - 307 - 164）を開設しました。本年度からは平日 10 時から 17 時に時間帯を変更し、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーがお応えしています。「小児がん こどもでんわ相談室」の周知のために、（株）スタイリングライフ・ホールディングスと当会が受賞した第 3 回（2017 年度）「企業ボランティア・アワード」（東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター主催）の奨励金によって作成したチラシやカードを小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等に配置していただいています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

個別相談会

年月日	内 容	相談医	会 場
2019年7月23日	小児外科	黒田 達夫 慶應義塾大学病院 小児外科	東京（本部）
2019年12月16日	整形外科	川井 章 国立がん研究センター中央病院希少がんセンター	東京（本部）
2019年12月17日	小児がん全般 （患児・きょうだいの心の悩みなど）	小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
2020年2月28日	脳腫瘍	柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科	東京（本部）
2020年3月18日	小児科	前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科	東京（本部）



③Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2019年6月23日に開催された総会に当会ソーシャルワーカーが参加した他、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営の助言や参加者の支援を行いました。

④スマートムンストーンキャンプ

2019年8月23日から25日まで、山梨県北杜市の清里高原にあるキープ自然学校にて、第22回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。

SMSは告知をされて小児がん向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的は達成されましたが、これからもこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになり、2012年度からは公益財団法人がんの子どもを守る会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら、新たなスタートを切っています。

2019年度は小児がんの子どもたち18名とボランティア、キャンプリーダーの稲田浩子先生(ゆうかり医療療育センター)と小児がん経験者のボランティアリーダー6名を含む実行運営グループの総勢51名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

協力(物品提供)：スタイリングライフ グループ、株式会社ガイア

19回目となる2019年度は7月27日～7月29日の日程で開催し、小児がんの子ども約22名、ボランティア12名、他、医師及び当会職員等を含む合計43名が参加しました。初日は、雨天のため宿泊先の宿でのレクリエーションを通して親睦を深めました。夜中に台風が通過し、2日目は安全のため出発を遅らせ、6時に民宿を出発。富士山5合目～6合目まで皆一緒に登山をしました。6合目からはそれぞれのペースに合わせて2グループに分けて登りました。最終日は富士風穴と樹海散策をしました。キャンプ中「きょうだいたちのお話し会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、一般財団法人清心内海塾、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

協力(物品提供)：株式会社ガイア、スタイリングライフ グループ

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子ども約22名が中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子ども約22名が、ここらにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、11月4日に親睦会を開催し、初参加のきょうだいも含めて、充実した時間を過ごしました。また、3月31日に開催を予定していた交流会は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策の一環として中止となりました。

(6) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

23回目となる2019年度は6月23日に年次大会と並行して行いました。28団体50名の方に参加いただき、院内親の会と活動拠点が病院に限定されない会に分かれグループワークを行いました。どのグループでも活動の中で課題とされていることなど話し合い、活発に意見交換をされている様子がありました。午後は当会の年次大会のプログラムに合流し、「小児がん医療最前線」及び分科会に参加して頂きました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、25団体に計70万3千円の活動費の支援を行いました。

(7) きょうだいの支援

①富士山にアタック!! 2019

小児がんの子ども約22名向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治療、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、30件(助成総額7,600,000円)を助成いたしました。助成金の一部については清水建設株式会社からのご寄付も活用させていただきました。

〈2019年度 治療研究助成一覧〉

(助成期間：2019年10月1日～2020年9月30日)

氏名(敬称略:順不同)	所 属	研究名称
石井 翠	順天堂大学医学部血液学講座／ 医学部整形外科・運動器医学講座	Ewing肉腫に対するiPS細胞由来融合遺伝子特異的細胞傷害性T細胞療法の開発
入江 亘	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 小児看護学分野	小児がんによる子どもの入院に伴う親ときょうだいの生活の変化・ 現状および認識とQOLとの関連
大木 健太郎	国立成育医療研究センター研究所 小児血液・腫瘍研究所	未分化肉腫に対する網羅的ゲノム解析研究
大杉 夕子	兵庫医科大学病院 内科学血液内科	成人科で治療されるAYA(adolescent and young adult)世代における 幹細胞移植の問題点-療養環境と長期フォローアップにおける問題



氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
大野 幸子	東京大学 医学系研究科生物統計情報学講座	小児がん診断前後での患者家族の健康アウトカム
小川 恵子	金沢大学附属病院 漢方医学科	小児がん経験者の心身包括的評価とフォローアップケアへの応用
小澤 達也	国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野	ゲノム編集技術を用いた内因性融合遺伝子の誘導による 脳腫瘍モデルの作成
片岡 智哉	名古屋市立大学大学院医学研究科 臨床薬理学	小児期における抗がん剤投与に伴う性腺機能低下メカニズムの解明 -ドキシルピシン投与後の脳下垂体および精巣機能の検討-
上別府 圭子	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護学分野	AYA期にある小児がん経験者のレジリエンスモデルの検証とその関連要因
清谷 知賀子	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	東京小児がん研究グループ（TCCSG）コホート研究
久保田 泰央	東京大学大学院医学系研究科 小児科	小児胚細胞腫瘍の包括的なゲノム解析及び治療標的の探索
古東 麻悠	国立国際医療研究センター 小児科	医療処置の苦痛軽減におけるプロジェクションの有用性に関する研究
坂本 謙一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	小児ランゲルハンス細胞組織球症の長期予後および晩期合併症の調査と 前方指摘縦断観察研究（LCH-19-FU）の体制確立
櫻田 香	山形大学医学部 看護学科／ 付属病院地域連携センター	小児脳腫瘍サバイバーの復学、就労の実態とその阻害要因の解明： 一般および医療者向けパンフレットの作成
関口 昌央	東京大学医学部附属病院 小児科	マルチオミックス解析を用いた肝芽腫のバয়োロジー解明と 高リスク群に対する治療標的の同定
高谷 具純	千葉大学大学院医学研究院 小児病態学	小児急性白血病で高カルシウム血症を引き起こす新規原因物質の同定及び 発症機序の解明
田中 祐吉	独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 臨床研究所	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラスの 適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
田中 美和	公益財団法人がん研究会 がん研究所 発がん研究部	ユーイング肉腫のエンハンサー制御分子を標的とした新規治療法の開発
中田 佳世	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際 がんセンター がん対策センター政策情報部	小児・AYA世代の白血病における疫学研究
中田 光政	千葉大学医学部附属病院 小児外科	高磁場MRIとDDSによる神経芽腫骨髄転移・再発の病態解明と セラノスティクスへの発展
中野 嘉子	国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野	小児・AYA世代の脈絡叢腫瘍の臨床および分子生物学的検討
羽賀 洋一	東邦大学医療センター大森病院 小児科	胆汁酸取込みによる白血病細胞の悪性度評価と胆汁酸取込み阻害による 新抗腫瘍薬開発のための基盤研究
早川 晶	淀川キリスト教病院 緩和医療内科	小児がん経験者の復学支援ツールの開発 ～子どもと家族、医療者、教育者の協働による学修 （指導）計画・ポートフォリオ作成の手引き、および「学校生活の過ごし方（仮称）」の作成～
半谷 まゆみ	国立成育医療研究センター 社会医学研究部	思春期・成人世代を迎えた小児がん経験者の心理社会的課題の抽出と評価
平林 真介	北海道大学病院 小児科	Noonan症候群合併MPD、JMMLの臨床的特徴に関する 後方視的観察研究
福岡 講平	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科	全ゲノムのメチル化解析を用いた小児脳腫瘍の分子分類と その臨床的意義の検討
細谷 要介	聖路加国際病院 小児科	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症と QOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
村山 拓	東京学芸大学 総合教育学系特別支援科学講座	小児がん患児の高等学校段階の教育的ニーズに関する調査研究
本橋 秀之	東京医科大学病院 疾患モデル研究センター	小児がん男児の妊孕性温存を目的とした未熟精巣組織凍結保存、 自家移植および生殖補助医療技術による生殖能回復モデルの開発
渡部 悟	国立成育医療研究センター研究所 小児血液・腫瘍研究部	小児白血病における晩期合併症例の遺伝子解析

（2）海外留学助成事業

小児がんに関わる若手の医療者が、海外の医療施設や研究・教育施設等に留学することにより、小児がん医療に関する高度な知見や資格・技術等を習得・取得し、広く小児がん医療及び患児・家族の療養環境の向上に寄与できることを目的として、当会が留学にかかる費用を助成する事業です。この事業は2017年度まで実施していた海外留学助成制度（PORF）をベースとして、審査機関を一般社団法人日本小児血液・がん学会教育研修委員会に委託する形に制度変更し、今年度より新体制のもと開始しました。

〈2019年度結果〉

助成対象者：伊藤卓洋（三重大学医学部附属病院小児科）

研究課題：腸管 GVHD における腸管幹細胞の機能解明

4 総合支援施設運営事業

（1）アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど難病の患児・家族に寄り添う、日本で最初の総合支援センターとして運営を開始しました。これまで宿泊部門では、3棟で延べ144,151名の方にご利用いただいております。また、リニューアル後の亀戸は、医療関係者や他の小児がん・小児難病の支援団体等からのセミナー・ルーム利用のニーズが高まり、総合施設としての位置づけが定着してきました。

2020年1月には、アフラックペアレンツハウス大阪の開設10周年を迎え、10年間で、大阪の宿泊部門において、延べ2,833家族（延べ23,114名）にご利用いただくことができました。

なお、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援もいただきながら運営を継続しています。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数（2019年4月1日～2020年3月31日）

亀戸（10室）／202家族
浅草橋（14室）／400家族
大阪（12室）／341家族
計 943家族

（2）その他の宿泊施設

①あかつきハウス

東京都中央区内の病院に遠隔地から治療に来られる子ども達とご家族のための宿泊施設として、区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして管理・運営しているお部屋です。2019年4月1日から2020年3月31日までの間、延べ17家族の利用がありました。



▲大阪



▲ハウス



▲亀戸（ラウンジ）



②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2019年4月1日より2020年3月31日までの間、延べ50家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患者・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■ 2019 年度要望書提出一覧

- 2019 年 10 月 17 日 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望(厚生労働省)
- 2019 年 10 月 17 日 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（厚生労働省）
- 2019 年 12 月 24 日 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（厚生労働省）

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
	小児・AYA世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会
	がん対策推進協議会
宮城	慢性疾患児童等地域支援協議会
福島	がん対策推進協議会
	小児慢性疾患対策協議会
関東	がん対策推進協議会（栃木県）
	がん対策推進協議会、他（東京都）
	小児がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、新潟市）
	がん対策推進協議会
富山	がん対策推進協議会
福井	がん対策協議会
	がん治療相談支援部会
	県難病患者団体連絡協議会
静岡	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
広島	難病対策推進協議会
香川	がん対策推進協議会

愛媛	がん相談支援推進協議会
	慢性疾患児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
	慢性疾患児童等地域支援協議会（久留米市）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
沖縄	がん対策推進協議会
	がん診療連携協議会

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2020年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患者・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患者・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4 月	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（嶺北地区）
	沖縄	ピアサポート
5 月	香川	支部総会、講演会「小児がん治療のフォローアップと小児がん経験者による健康管理について」、相談会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	沖縄	ピアサポート
6 月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	福島	「第2回福島県がんシンポジウム『がんを知る』『がんを語る』～福島がんシンポジウム2019～」
	新潟	病棟訪問人形劇、ピアサポート・ママカフェ
	福井	のぞみ福井小児がん公開セミナー
	関西	のぞみトークきんき 2019 「小児がん医療最前線～導入された新たな治療」
	広島	支部総会・講演会「患者家族の QOL 向上のための小児医療を目指して」
	沖縄	ピアサポート
7 月	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	岡山	小児がん家族の交流会
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか
	宮崎	講演会「小児がんの晩期合併症と就学・就業支援について」
	沖縄	ゆんたく会（交流会）、ピアサポート
8 月	北海道	交流会
	新潟	支部総会、講演会、懇談会、あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）、ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（嶺南地区）
	香川	交流会、四つ葉のクローバー（小児がん経験者）の会
	沖縄	ピアサポート



開催月	支部	内 容
9月	福島	個別相談会
	新潟	病院がプラネタリウム、病棟訪問人形劇、ピアサポート・ママカフェ
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	福井	クリニクラウン協会共催病気や障害を抱える子どもたちの今と未来を考えるワークショップ
	関西	親の会
	香川	院内相談会
	高知	支部開設 10 周年記念講演会「大人になっていく君たちへ」
	九州北	第 49 回 講演・交流会（大分）「小児がんを抱える子どもとその経験者の QOL 改善について」
	沖縄	ピアサポート
10月	北海道	病棟訪問人形劇（クロさんのジャグリングショー）
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）、ピアサポート・ママカフェ
	沖縄	ピアサポート
11月	北海道	小児がん経験者＆家族の交流会、はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催「AYA 世代当事者交流会」
	九州西	講演会「しあわせはみんなのそばに」子どもを亡くした家族の会、映画上映会「風のかたち・山の巻」
	沖縄	ピアサポート
12月	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（丹南地区）
	愛媛	ラ・ファミリエ、横浜こどもホスピスプロジェクト共催公開シンポジウム
	沖縄	ピアサポート
1月	新潟	ピアサポート・ママカフェ
2月	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム「小児がん患者の質の高い長期生存を目指して」
	沖縄	ピアサポート

※ 他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国 21 の支部幹事を対象に年 2 回開催しております。2019 年 6 月 23 日に飯田橋レイナービル（東京都）にて 1 回目を開催しました。2 回目は、10 月 5 日、6 日の 2 日間にわたりアフラックペアレンツハウス亀戸（東京都）で開催し、研修や意見交換、ディスカッションの他、「チャイルド・ライフ・スペシャリストってどんなお仕事？」と題して埼玉県立小児医療センターのチャイルド・ライフ・スペシャリストの天野香菜絵氏よりご講演いただきました。また、5 つのテーマ（グリーフケア、教育、きょうだい、就労、長期フォローアップ）について個別にディスカッションも行いました。



▲ 支部活動の風景

7 広報・啓発・募金活動 等

第 24 回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2019 年 11 月 14 日（木）～16 日（土）広島コンベンションホールにて、第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会（会長：檜山英三）、第 17 回日本小児がん看護学会学術集会（会長：祖父江育子）、第 24 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが開催されました。

後援：厚生労働省、広島県、広島市、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム

「小児・AYA 世代のがんと生殖医療を考える ～さまざまな選択～」

- ・日 時：2019 年 11 月 16 日（土）13:00 ～ 15:30
- ・場 所：広島コンベンションホール
- ・座 長：細井 創（日本小児血液・がん学会理事長／京都府立医科大学大学院 医科学研究科 小児科学）
上別府圭子（日本小児がん看護学会理事長／東京大学大学院医学系研究科 家族看護学分野）

・シンポジスト

「AYA 世代のがんの臨床上の課題：妊孕性温存の実践と問題」

二村 学（岐阜大学医学部 腫瘍外科）

「がん・生殖医療の生殖医療専門医としての実際と小児期妊孕性温存の課題」

原 鐵晃（県立広島病院 成育医療センター 生殖医療科 主任部長）

「小児がん経験者への妊孕性にかかる支援と課題」

笹木 忍（広島大学病院 看護部）

「特別養子縁組などの制度について」

西田知佳子（認定 NPO 法人 環の会）

「小児がん経験者として不妊とどう向き合うか －子どもを持ちたい立場から－」

平澤 一郎（がんの子どもを守る会会員）

「小児がん経験者として不妊とどう向き合うか －不妊治療をしない選択をした立場から－」

宮川 智子（がんの子どもを守る会会員）

参加者：約 300 名

■チャリティイベント

〈おりづるタワー見学会〉

- ・日 時：2019 年 11 月 16 日（土）
- ・会 場：おりづるタワー

〈チャリティマラソン・ウォーキング〉

- ・日 時：2019 年 11 月 16 日（土）早朝
- ・会 場：太田川河川敷



■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた49点を展示しました。

- ・期 間：2019年11月14日（木）～16日（土）
- ・来 場 者：約700人

助成：公益財団法人 JKA によるオートレース補助事業

協賛：ANYTIME FITNESS、キャノンメディカルシステムズ株式会社



■関連団体紹介コーナー

- ・日 時：2019年11月14日（木）～16日（土）
- ・場 所：広島コンベンションセンター

小児がんに関係する患者会や支援団体など26団体の資料を積み置き展示いたしました

ブース出展

小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティーイベントや小児がん関連の会合の会場にて、小児がんの現状や当会の活動について周知し、その他募金活動を実施しました。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ5,600個、ストラップ1,500個、スワロフスキー付ピンバッジ175個のご支援をいただきました。（ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に協賛いただきました）。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で60か所に設置のご協力をいただいております。



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国38か所に設置していただいております。

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより拡げられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、今年は小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってほしいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。

後援：厚生労働省



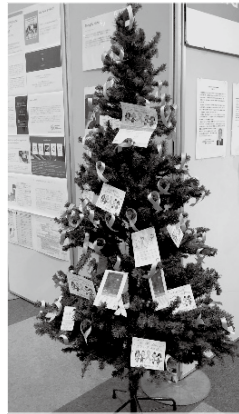
■啓発チラシ配布及び募金活動

キャンペーン期間中、本部及び支部の主催、または行政機関や医療機関などの協力のもと、啓発チラシの配布や募金活動、小児がんについて考えるイベントなど、全国約100か所以上にて活動を行いました。活動の様子は各地域のメディアでも取り上げられました。

〈小児がんに関連する展示〉

公共施設や医療機関、ショッピングモール等の一角を使い、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、小児がんのシンボルであるゴールドリボンで装飾した「ゴールドリボンツリー」の展示も各地域にて行い、小児がんの認知度向上に努めました。

その他、国際小児がんデーキャンペーンの趣旨にご賛同くださった多数の関係機関、企業、個人の方からのご支援をいただきました。



〈主な協力機関〉

行 政

宮城県、文京区、静岡県、沼津市、長泉町、福井県、福井市、小浜市、敦賀市、福岡県、福岡市、飯塚市、嘉麻市、桂川町、小竹町、小郡市、鞍手町、宗像市、直方市、吉富町、佐賀県、鳥栖市、植田市、他

病 院

新潟大学医歯学総合病院、新潟県立がんセンター新潟病院、福島県立医科大学、国立成育医療研究センター、都立小児医療センター、国立国際医療センター、神奈川県立こども医療センター、県立静岡がんセンター、県立静岡こども病院、敦賀医療センター、福井医療大学、福井県済生会病院、福井県立病院、福井赤十字病院、福井大学附属病院、本馬医院、市立敦賀病院、岡山大学病院、四国こどもとおとなの医療センター、いのうえ小児科、九州大学病院、九州がんセンター、佐賀県健康づくり財団、佐賀大学、佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、大分大学医学部附属病院、大分県立病院、宮崎大学医学部附属病院、他

企業・団体

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店、明治安田生命保険相互会社、日本チャールス・リバー株式会社、モルガン・スタンレー、武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン、神戸フィルハーモニック、大阪エヴェッサ、嘉麻市商工会、他

＊その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>

8 国際活動

国際小児がんの会（CCI／Childhood Cancer International）年次総会への参加

2019年10月23日～26日にフランスのリヨンにて国際小児がん学会（SIOP／International Society of Paediatric Oncology）と同時開催された国際小児がんの会（CCI／Childhood Cancer International）年次総会に、当会理事長の他、CCI派遣事業として公募により選ばれた4名の小児がん経験者が参加しました。なお、CCIへの加盟は90ヵ国167団体となりました。

PHPF（Parents Helping Parents Fund）への協力

開発途上国等の国際小児がんの会（CCI／Childhood Cancer International）年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※ 当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対 象 者

- ・18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
- ・給付開始時に高等学校等に在学中の方。
- ・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

対象となる教育機関

「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

給 付 金 額

- ・月額25,000円（2019年度募集分より月額20,000円）
- ・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
- ・奨学金の返還は原則不要。

本 年 度 実 績

小児がん経験者：助成件数	57件	（高1 15件、高2 18件、高3以上 24件）
がん遺児：助成件数	298件	（高1 72件、高2 97件、高3以上 129件）
合計：助成件数	355件	（高1 87件、高2 115件、高3以上 153件）
給付金額	：93,395,000円	



10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992 年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児病棟にボランティアを週 1 回派遣し、入院患児を対象に遊びの支援活動をおこなっています。

本年度は小児科プレイルームや各病室が主な活動場所となりました。また、活動をおこなう上での注意事項、知識や情報交換を目的としたミーティングを6回(隔月)、外部からの講師を招いての研修会を1回(8月)、当会によるボランティア研修会(3月)を開催するとともに、活動報告として「たんぽぽ新聞」を3回発行しました。同院のボランティアコーディネーターと積極的な連携を図るとともに、同院ボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議に参加し、より良い関係を築きながら活動をおこなっています。

(2) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所(東京)と大阪事務所で延べ734名(内ペアレンツハウスボランティア598名)からボランティア協力をいただきました。また事務所外におきましても、キャンプ、病院派遣、イベント、自宅作業、全国の支部活動等で多数の個人、団体の方からご協力をいただきました。当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2019年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は4件あり、すべて調査研究委員長の承認が得られました。4件承認された内、以下の1件について関係者へ協力を呼びかけました。残りの3件につきましても現在調整中です。

研究名称	協力内容
「小児期、AYA 期発症がん経験者の初めての就職活動における、病気開示意思決定支援ガイドの実用性評価研究」 土屋 雅子(国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部研究員)	対象者：以下の条件すべてを満たす10名程度 ①調査時20歳以上の男女(年齢上限なし) ②初めて就職活動を行う以前にがん診断を受けた人 あるいはその保護者 ③日本語の読み書きに支障がない者 方 法：インターネットアンケート調査

■研究協力

2019年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業) 「思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究」班 研究代表者 清水 千佳子(国立研究開発法人国立国際医療研究センター 乳腺腫瘍内科)	委託研究
厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業) 「小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するがんゲノム医療体制実装のための研究」班 研究代表者 熊本 忠史(国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科)	研究協力
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生(埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科)	実行委員会委員

12 2019年度年次大会開催

2019年6月23日、飯田橋レインボービル(東京都新宿区)にて「小児がん医療最前線」をテーマに年次大会を開催しました。

全体会	分科会
第1部 理事長挨拶 2018年度活動報告および2019年度事業計画概要 第2部 ・基調講演 「小児がん医療最前線～導入された新たな治療～」 小川 千登世先生(国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科)	1 個別医療相談 2 子どもを亡くした両親のために 3 教育 4 小児がん経験者 5 きょうだい



▲ 年次大会全体会



寄付・募金者一覧

(2019年4月1日～2020年3月31日)

13 企業・団体からのご協力 (敬称略・順不同)

物品寄付

アフラック生命保険株式会社、アフラック社会公共活動推進室、東京ブロックアソシエイツ会、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラックアソシエイツ会秋田、アフラック岡山支社、インテリム株式会社、スタイリングライフ グループ、水戸ロータリークラブ、飯塚竜王ライオンズクラブ、飯塚カトレアライオンズクラブ、桂川ライオンズクラブ、大阪府宅地建物取引業協会中央支部、日本郵便北海道支店、アフラック広島総合支社、ツーサン株式会社、広域法人アソシエイツ会、アフラック愛知総合支社、愛知総合アソシエイツ会、丸全商事株式会社、MHI 保険サービス、明治安田生命保険相互会社、株式会社エスプリライン、株式会社ガイア、株式会社健明、ジェイアンドエス保険、大和ハウス工業東京支社、合同会社マナブル、モルガン・スタンレー、第一生命保険株式会社、第一生命労働組合、第一生命労働組合都心マーケット営業室支部、株式会社大和証券グループ本社、広島ユネスコ協会、一般社団法人霞会館、第一三共ヘルスケア株式会社、日本児童文芸家協会、日本データカード株式会社、伯方塩業株式会社、森忠商事株式会社、有限会社裕和、他

ご招待

アフラック生命保険株式会社、キャノンメディカルシステムズ株式会社、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、栗山巧 (埼玉西武ライオンズ)、新日本フィルハーモニー交響楽団、一般社団法人 Empower Children、ごえんなこんさあと

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、モルガン・スタンレー、EA ファーマ株式会社、大原薬品工業株式会社、キャノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社カスタマーリレーションズテレマーケティング、大阪エヴェッサ、ユーザイ株式会社、他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～

寄付者一覧

※敬称略

相川 勝 愛知県西尾保健所 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 昭雄 青木 千賀 青木 嘉仁 青笹 真紀 赤根 宏行 秋本 俊治 秋山 恵子 秋山 由里子 浅田 博司 浅野 通直 浅見 美紀 アストラゼネカ株式会社 東 博行 東 裕也 足立 義一 阿南 恭子 アフラック生命保険株式会社 社会公共活動推進室 アフラック 横浜支社 アフラック大分支社 アフラック香川県アソシエイツ会 アフラックサービスショップイオン瀬川店 アフラック アフラック道央アソシエイツ会 アフラック広島県アソシエイツ会 アフラック募集代理店 有限会社菊前 アフラック町田アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 安部 美智代 アポットジャパン株式会社 天野 功二 アムンディ・ジャパン株式会社 荒井 郁美 新井 孝史 荒木 真悟 安藤 なおゆき 飯田 雅史 飯塚 敦夫 五百川 麻子 五十嵐 香織 井口 恵子 池内 多喜 伊佐 龍寿 石井 映子 石井 正之 石上 久美 石川 孝成 石川 幸雄 石崎 多恵子 石田 也寸志 石橋 昶志 石橋 裕子 石原 節子 石原 貴泰	泉 由幸 磯部 直美 市川 瑞穂 一瀬 すみ 一般財団法人 医療情報健康財団 一般財団法人 緑風会 一般社団法人 信託協会 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 ジャパンネルクラブ 大阪ブロック協議会 一般社団法人 生命保険協会 一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 一般社団法人 不動産協会 伊藤 尚子 伊藤 有為子 伊藤忠商事株式会社 稲畑産業株式会社 Junko INAMURA 井上 俊男 伊野波 盛郁 伊野波 盛俊 今井 正 今井 千速 今里 千恵子 井村 律子 入江 まゆ 医療法人すみれ会 中央病院 岩倉 良昭 岩越 祥晃 岩崎 公子 岩瀬 孝志 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 岩出 智子 岩淵薬品株式会社 上島 亮 ウェスプ ベーター 上田 恵 内田 裕之 内野宮 ふよ子 海野 英爾 海のそばのカフェ bliss point AGCマイクロガラス株式会社 SCSK EARTH ONE SCSK株式会社 ST.BALDRICK'S FOUNDATION 江戸 靖浩 江藤 智佐子 NPO法人 目黒ユネスコ協会 NPO法人 地域の医療を明るくする会 NPO法人 酒は未来を救う会 植松 貴実子 遠藤 明 遠藤 春義 大浦 幸子 大木 貴子	大木 綱雄 大久保 照子 大久保 俊樹 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大崎 誠 大島 泰子 大須賀 ひさ子 太田 鈴子 太田 為治 太田 浩史 大坪 哲郎 大坪 伸彰 大野城ライオンズクラブ 大場 幸夫 大原小児がん基金 大引 啓次 大政 満寿子 大村 浩 大森 昌子 緒方 浩美 岡本 英理子 岡本 幸一 岡本 武 岡谷サービス&ホームズ株式会社 岡山県美作保健所 小川 晶子 小川 光枝 沖田 直子 奥野 達也 尾崎 雅子 小澤 未央 越智 早也香 落合 章 落合 仁 小野 智久 おのうえこどもクリニック 小野薬品工業株式会社 海田 由美子 花王株式会社 加賀美 勝治 香川大学医学部付属病院 赫多 久美子 笠井 功治 笠井 千晴 かしのき保育園 片倉 政人 片山 敏子 勝瀬 求 勝連 しの 加藤 孝 加藤 厚子 加藤 友和 加藤 仁義 加藤 廣久 加藤 正彦 門田 かず子 (ラ・ヴィータアンサンブル)	金山 直司 金子 武行 金子 規子 兼松株式会社 狩野 美由紀 株式会社 marron marron 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 株式会社 草むしり 株式会社 ZEROPLUS 株式会社 ファーストガレージS 株式会社 吉半 株式会社 BAN style 株式会社 Fast Fitness Japan 株式会社 Human 株式会社 KAIDO GROUP HLDGS 株式会社 KANSOH 株式会社 プラスワン 株式会社 アコーセラミック 株式会社 アスキー 株式会社 梅原洋紙店 株式会社 エイティー 株式会社 Agent 株式会社 OKAZAKI 株式会社 カスタマーリレーションズテレマーケティング 株式会社 共栄会保険代行 株式会社 グッドライフジャパン 株式会社 グローウィング 株式会社 神戸製鋼所 株式会社 コムネット 株式会社 コモディイイダ 株式会社 材料屋 株式会社 三平商会 株式会社 サンリンシャ 株式会社 資生堂 株式会社 昌和運輸 株式会社 相建 株式会社 たかやま 株式会社 椿山 株式会社 デンソー 株式会社 東海日動パートナーズEAST 株式会社 トップツーシステム 株式会社 日幸金属工業所 株式会社 ニヤクコーポレーション 株式会社 はなまる 株式会社 ビーエル 株式会社 日立ハイテクノロジーズ 株式会社 ファーストファミリー 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 Fortune KK 株式会社 保険サポート 株式会社 メディカル・アイ・ファミリー 株式会社 メディビューティー 株式会社 ユニバーサルファミリー 株式会社 淀川製鋼所 株式会社 ワールドファミリー 鎌田 政之 亀井 加代子
---	---	--	---



亀田 欣也 軽部 裕美子 川上 清里 川口 弘二 川口 孝之 河崎 千恵 川田 万里子 河出 トシ 河野 記久子 川又 ひとみ 菊地 眞幸 岸田 恭二 岸本 新平 喜多 元子 北浦 珠路 北澤 実菜子 北日本石油株式会社 北原 義明 北村 龍彦 北村 基郎 キッコーマン株式会社 木下 成顕 木下 健 木原 陽佑 木平 健太郎 木村 吉隆 きもべつ喜らめきの郷 キャノン株式会社 キャノンメディカルシステムズ株式会社 九州大学病院 協和キリン株式会社 草葉 翔孔 楠井 晶 九原 拓郎 久保田 一男 窪田 貢 熊谷 則一 隈崎 哲也 熊本歯科衛生士専門学院 棚沢 静枝 伊藤 孝司 園田 哲也 下川 育美 岩橋 栄司 久留米高年礼ライオンズクラブ 和田絹枝 原田 直樹 古賀 等 高田 幸俊 轟 義寛 四ヶ所 十郎 松岡 秀樹 松尾 一広 松門 高大 草場 雄三 田志 俊樹 富松 豊次 高橋 えり クレアゴルフフィールド 暮部 勢子 黒川 征治 黒木 智 黒羽 薫 桑原 智 げんき・結愛・げんき こども園 小泉 晶一	公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 合志 修一 高知医療センター すこやかA 合同会社 MAM&d. 鴻池・平井特定建設工事共同体 神戸 智子 興和株式会社 コカ・コーポラトラスジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 小坂 洋子 小島 昌子 後藤 雅 後藤 史子 後藤田 秀和 琴尾 みさと 小林 宗一 小林 美奈子 小林 康子 小林花卉 駒村 幸雄 小宮 毅 小室 陽一 財津 克典 齋藤 聡 斉藤 孝 齋藤 雅世 早乙女 和子 酒井 あゆみ 坂井 恵衣子 榊原 悠児 榊原 義夫 株式会社 阪口メンテナンス 坂田 年 坂田会計事務所 坂田 義照 坂詰 松美 酒徳 浩之 阪本 哲男 桜井 なおみ 櫻井 祐記 篠井 智恵子 笹川 泰弘 佐々木 大輔 佐藤 明子 佐藤 公則 佐藤 浩樹 佐藤 浩 佐藤 雅敏 高田 幸稔 佐藤製薬株式会社 佐用 敏彦 沢井製薬株式会社 澤田 敦子 沢田 祐子 三條 幸江 椎名 延年 CBO株式会社 JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 篠田 章 篠原 聖二 篠原 百合子 渋谷 美恵子 渋谷 幸枝 島田 健司 島松 素子	嶋屋 聖子 清水建設株式会社 志村 朱美 下林 正大 下山 直則 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 宗教法人 ジャパニースゴスベルチャーチ 荘 優雅 白井 史 白石 量子 白井松新薬株式会社 白神 洋子 新毛 淳子 新谷 葵 水琴トライムボランティア連合 杉浦 孝平 杉田 完爾 杉本 洋一 杉山 太一 カレンカップ 鈴木 亜津子 鈴木 栄二 鈴木 千穂 鈴木 久夫 鈴木 圭史 鈴木 美文 須田 孝子 須藤 壮太郎 Spread Love Okinawa 住友商事株式会社 洲脇 啓史 瀬尾 幸男 関 真幸 瀬戸 清美 セフティー電気用品株式会社 千賀 伸一 双日株式会社 相鉄保険サービス株式会社 添田 美菜 曾我 高臣 曾根 宏磯 園 克彦 伊賀 文雅 見上 史織 棟方 理史 第一生命保険株式会社 本町事業所 第一生命労働組合 首都圏営業本部コンサルティング営業室 だいき動物病院 高橋 大正製薬株式会社 大同特殊鋼株式会社 大日本住友製薬株式会社 平 哲也 多賀 哲男 高木 えり絵 高木 正稔 高澤 仁司 高瀬 一使徒 高瀬 一博 高田 明子 高田 尊信 高田 圭之 高野 佳代 高橋 晶子 高橋 和子 高橋 建太 高橋 繁雄	高橋 まどか 高畑 由希子 高松 英夫 高山 香世 武石 香 竹川 茂 竹島 開 竹嘉 博一 武田 春彦 竹村 統成 田尻 健 田中 五郎 田中 達男 田中 万起子 田中 美帆 田中 雄 田中 満 谷川 翔太 谷口 浩司 谷山 健太郎 たねだキッズクリニック 種田 寛 玉井 宏明 田村 洋美 胆道閉鎖症の子どもを守る会 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 中馬 宏之 張 光陽 蝶理株式会社 ソーサン株式会社 つくしの会 つくばね開発株式会社 辻林 温子 津田 治 津田 留美 土田 恭平 坪田 邦彦 鶴岡 朝美 出口 和子 手納 朋子 寺田 翠 戸井田 聡子 東京葛飾東ライオンズクラブ 東京コカ・コーラボトリング株式会社 東京都立小児総合医療センター 看護部 鎌田 東京マリオットホテル 大日本住友製薬 オンコロロジー学術企画部 東邦薬品株式会社 東洋英和女学院小学部母の会 渡海 至康 土岐 憲二 特定非営利活動法人 ジャパンハート 戸田 怜奈 栃木県保健福祉部健康増進課 土手 多喜子 トピー工業株式会社 飛松 賢一 富田 基生 富田 由巳子 富山福祉短期大学 豊岡 正仁 豊田 純子 豊田通商株式会社 内藤 龍平 中井 淳夫
--	--	--	---

中尾 憲治 中川原 章 中込 悦雄 長崎県県央保健所 長崎バス商事株式会社 中澤 和男 中澤 幸子 中澤 弘美 中嶋 幸生 中島 久子 長瀬産業株式会社 中田 誠一郎 中田 政和 仲手川 亜美 中西 功 中野 啓史 長濱 智子 中村 良樹 仲本 千佳子 永安 ちえり 中屋原 薫 長山 希世香 成岡 千絵 成田 隆澄 成田 幸子 成澤 ともえ 成澤 一浩 名和 久子 難病対策センターひろしま 南部 昌弘 新潟県信用農業協同組合連合会 新村 昌弘 2型カラーゲン異常症部会 西 沙嘉梨 西 正 西井 一博 西川 信吾 西田 知佳子 西部 雅 西村 育子 西村 浩志 仁田原 浩明 日鉄日新製鋼株式会社 日鉄物産株式会社 日鉄保険サービス株式会社 二宮 法久 日本医科大学千葉北総病院 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 川上 修 日本生命 長崎支社 新長崎営業部 日本生命保険相互会社 川棚営業部 日本チャールス・リバー株式会社 日本チャールス・リバー株式会社 日野飼育センター 日本毛髪工業協同組合 日本労働組合総連合会 認定特定非営利活動法人 朴の会 ノーベルファーマ株式会社 遠藤 早苗 久永アソダカンパニー株式会社 代表取締役 堀村 仁 野島 尚恵 野田 文美 ノバルティス ファーマ株式会社 稲田 浩子	野村アセットマネジメント株式会社 Harvey Paul A.S. ハイツオーク 萩原 明子 橋都 浩平 橋本 由香 馬上 星一 馬上 豊 長谷川 富恵 パナソニックホームズ株式会社 濱 克彦 浜谷 秀孝 早川 晶 林 修治 林 志郎 林 正彦 林 富 林田 昌子 速水 節子 原 和子 針生 清高 阪和興業株式会社 東山 ともみ 東山内科・小児科 樋口 明子 樋口 清江 樋口 俊一 久光製薬株式会社 火ノ川 好信 水見 三佐子 平井 五郎 平井 博夫 平尾 美和 平澤 和美 平手 秀典 平山 忠之・貴也 廣村 努 深澤 晋 福島 京子 福地 誠一郎 福与 有紀 藤川 博子 藤田 昶子 藤田 裕美子 富士電機株式会社 藤原建装株式会社 藤平 一雄 藤村 正 藤本 敏彦 藤本 ひとみ 藤本建設株式会社 藤山 優子 武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン 二井 立恵 洲上 一宏 船原 岬 伊藤 泰子 古嶋 禎子 今任 可奈子 松尾 英司 世利 のり子 木下 慶香 普連土学園 宗教委員会 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社	弁護士 岩上 公一 許 南浩 五島 清 ぼけっとの会 星野 貞夫 細井 廣一 細田 裕美 堀田 理津子 ほのぼのサロン 堀川 哲男 堀口 悦子 前田 淳子 前田 朗子 眞尾 貴年 益子 直紀 増田 勝治 松井 秀文 松阪 直美 松崎 明日香 松下 さよ子 松下 タエコ 松下 梨菜 松田 信夫 松谷 佳代 松永 憲一郎 松原 圭 松村 伸子 松本 敬子 トータルサポート 松本 陽代 JAIFA 東京協会マニユライフ分会 マニユライフ生命保険株式会社 丸紅株式会社 丸山 昭司 丸和バイオケミカル株式会社 三浦 厚子 三浦 貞夫 三浦 茂由 三川 勝夫 三木 慎二郎 水江 伸夫 水柿 多香子 水代 富雄 水野 亜沙美 水野 哲 三井物産株式会社 三橋 治美 みつばちコンベンション 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 宮尾 芳正 宮城 智央 三宅 良子 宮崎県日向保健所 宮澤 敦子 宮下 仁志 宮田 淳子 宮の台幼稚園バザー委員会 宮本 浩樹 みんなはなまへる 牟田 謙一 村井 淳子 村越 美香 村松 毅 村本 尚和	村本 理絵 室谷 哲哉 妻鳥 毅史 元田 雅弘 本山 寛 森 賢治 森 洋文 森本 馨 守谷 芳和 森山 健一 守山内科・小児科 モルガNSTアンレー 安野 啓一郎 柳澤 隆昭 柳瀬 均 柳本 明子 八巻 恭治 山口 利子 山口 悠太 やまさき えりか 山崎 佳歩 山崎 聡 山崎 文之 大阪・病児者教育すすめる会 山下 匠子 山下 公輔 山城 千恵子 山田 勝三 山田 雄介 大和 健一 山室 達夫 山室 由美子 山本 章子 山本 暁彦 山本 勝利 山本 敬 山本 貴也 山本 信江 山本 麻衣 山本 道明 山本 和加子 山陸 康博 勇上 清子 有限会社 築地につしん太助 有限会社 松田興業 有限会社 飯塚保険事務所 有限会社 井田総合ビジネス 有限会社 エチ・ピー・サービス 有限会社 エヌ・ティー・シー 有限会社 大瀬設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 中村産業 有限会社 フジイ 有限会社 フロム・ジャパン 有限会社 メルシー 有限責任事業組合チャイルドケア研究所 弓削 千恵子 豊ファミリー株式会社 横浜冷凍株式会社 横堀 隆 横幕 航平 与古光 茜 吉井 智美 吉川 隆 吉田 章
--	--	---	---

吉田 敏孝 吉田 洋 吉田 ゆり恵 吉野 憲一 吉野 純爾 吉野 智子 吉村 公一 吉本 哲也 米倉 邦子 米倉 寿 米原 チドリ 米山 望	阿蘇ライオンズクラブ 芦北ライオンズクラブ 株式会社 こざき 錦ライオンズクラブ 熊本火の国ライオンズクラブ 熊本平成ライオンズクラブ 熊本龍峰ライオンズクラブ 甲佐ライオンズクラブ 人吉ライオンズクラブ 浅田 洋子 大塚正法司法書士事務所 直方ライオンズクラブ	田川ライオンズクラブ 八代球磨川ライオンズクラブ 飯塚カトレライオンズクラブ 飯塚電王ライオンズクラブ 肥後東ライオンズクラブ 福岡リパティライオンズクラブ 穂波ライオンズクラブ 有限会社 植田観光 高野 瑞代 岡山ハーモニーライオンズクラブ 三原浮城ライオンズクラブ 府中ライオンズクラブ	北九州小倉東ライオンズクラブ 明科ライオンズクラブ ラッセル・インベストメント株式会社 LEE DONGHAE 若杉 和枝 若松 梨沙 若生 みどり 和田 秀一 ワタキューセイモア株式会社 渡部 眞澄 渡邊 万里
---	--	--	--

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（5,890件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

A.FAMILY 株式会社 Alforjoy CLUB66 代表 斉藤 和巳 愛知県立千種高等学校 味の嘉づき あすなろ整骨院 碓井店 出水ライオンズクラブ 医療法人 三幸会 小澤診療所 インテリムホールディングス株式会社 大野城ライオンズクラブ 大原薬品工業株式会社 岡元 八寿子 片岡 裕美 金沢城北ライオンズクラブ 株式会社 Fortune KK 株式会社 K2 インターナショナルジャパン 株式会社 ユメテラス	関西学院 高等部 吹奏楽部 吉祥寺 ひまり屋 公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会 神戸市少年団西部地区委員会 小児がんチャリティーコンサート 女性合唱団「くわな市民コーラス」 住友病院 ゼ シュエット 税理士法人 松本 聖路加小児医療センター 聖路加メサイア ソフトバンク株式会社 第一生命労働組合 大阪北内勧電支部 大阪北営業職支部 第一生命労働組合 上野総合営業職支部 東京メディカルライオンズクラブ 富山福祉短期大学 長澤 一成	中田中央歯科医院 新潟ライオンズクラブなでしこ部 日本生命保険相互会社 日本生命保険相互会社 柏常総支社 佐貫営業部 日本生命保険相互会社柏常総支社 柏の葉営業部 日本労働組合 総連合会 沼津経営塾 はるこどもクリニック 福井フェニックスライオンズクラブ プリストル・マイヤーズ株式会社 マニユライフ生命保険株式会社 間宮 光江 道の駅 伊豆ゲートウェイ函南 道の駅 風穴の里 南 誠（公孫会 新潟支部） 明治安田生命保険相互会社 メディカルライオンズクラブ	ヤフー株式会社 大和山むつ支部有志一同 有限会社 築地にしん太助 有限会社永楽食堂 有限会社興水酒店 有限会社酒ハウス ヤマヤ 有限会社ミーツステーション ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区キャビネット ライオンズクラブ国際協会 330B 地区 FWD 委員会 佐藤 芳織 ライオンズクラブ国際協会 331-C 地区 苫小牧キャビネット ライオンズクラブ国際協会 332B 地区キャビネット ライオンズクラブ国際協会 337A 地区 2R-3Z 福岡地区ライオンズクラブ 龍津寺 る・ふっくらん レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 ローソン浜寺石津西 4 丁店
---	---	---	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2019年度事業報告書
2019年4月1日～2020年3月31日

2020年6月1日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311 (代表)